海外短期語学研修報告書の分析
―テキストマイニングを用いて―

大村　吉弘

１．近畿大学短期語学研修について

近畿大学では在学生の語学力向上、外国語学習のモチベーション向上のため、また実際に現地での生活体験を通して国際的な感覚を身につけるため、夏期および春期に短期語学研修を実施している。現在、英語圏では、5 か国（アメリカ、カナダ、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド）において、また中国、台湾、韓国でも研修を実施している。

英語圏はすべて 4 週間のホームステイによる大学付属語学学校での語学研修を行っている。中国語圏、韓国語圏においては、3 週間学内の寮やホテルを宿舎とし、大学付属の語学学校で研修を行う。参加資格は近畿大学すべてのキャンパスに在籍する、学部、大学院、短大生となっており、参加学生は帰国後、報告書を提出することを義務付けられているが、単位認定を必要としない学生、単位認定を実施していない学部所属の学生には強制力がなく、未提出の学生も多い。

今回は、その提出された報告書の自由記述部分のうち、１）学習の成果、２）反省点、３）次年度以降参加する学生へのアドバイスという 3 点に焦点を当て、テキスト分析を行うことにより、体験談を統計的にまとめ、今後のプログラム向上の資料としたい。今回の分析においては、数理システムの Text Mining Studio 4.0 を用いて分析を行った。

今回の調査対象者は2010年以降近畿大学国際交流室主催の短期語学研修に参加し、報告書を提出した291名であるが、上記 3 項目について漏らさず記述してあった、279 名を分析対象とした。

表1：年ごとの短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	2010	47	16.8	16.8	16.8
	2011	103	36.9	36.9	53.8
	2012	129	46.2	46.2	100.0
	合計	279	100.0	100.0	

表１に示す通り、2011年より、英語圏での春期語学研修が追加されたため、2010年度以前と比較すると、格段に参加者が増えていることがわかる。しかし、表2にある通り、春期研修はまだ開始されたばかりであり、かつプログラム数も少ないので、夏期研修の方が参加者が多いことがわかる。

表２：季節ごとの短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	夏	207	74.2	74.2	74.2
	春	72	25.8	25.8	100.0
	合計	279	100.0	100.0	

また、表3～7において参加者の内訳を見ていくと、参加費用が安価で、最も近い研修校の韓国キョンヒ大学への参加者が最も多い（表3）。さらに、学部ごとの参加者の内訳をみると、やはり言語コースを持つ文芸学部からの参加者数が他学部より多い（表4）。さらに、学年ごとの割合を見ると、2年生が一番多いことがわかる。これは1年生は夏期語学研修の申し込み時には入学直後であること、3年生・4年生は就職やインターンシップ等で約1カ月という研修期間がなかなか確保できないためと考えられる（表5）。さらに、男女別では、圧倒的に女子の参加者数が多いことがわかる（表6）。これは元々言語に興味のあるのは女子が多いこと、そして韓国語圏への研修の大半が女子であることが原因であると考えられる。参加者数を言語別に見ると、英語圏、韓国語圏、中国語圏の順となっている（表7）。国別でみると、韓国への留学が圧倒的に多い（表8）。表4で学部ごとの参加者数を示したが、これは全体数であり、英語圏には多くの学部から平均的な参加者があり（表9）、韓国語圏、中国語圏へは、大半が韓国語および中国語を専攻とする文芸学部学生の参加が多いことがわかる（表9）。

表３：研修校ごとの短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	カルガリー（カナダ）	42	15.1	15.1	15.1
	キョンヒ（韓国）	104	37.3	37.3	52.3
	サザン（オーストラリア）	33	11.8	11.8	64.2
	ダブリン（アイルランド）	13	4.7	4.7	68.8
	デイビス（アメリカ）	21	7.5	7.5	76.3
	ボンド（オーストラリア）	40	14.3	14.3	90.7
	ワイカト（ニュージーランド）	6	2.2	2.2	92.8
	北京　（中国）	20	7.2	7.2	100.0
	合計	279	100.0	100.0	

表４：学部ごとの短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	経営	54	19.4	19.4	19.4
	経済	52	18.6	18.6	38.0
	工	13	4.7	4.7	42.7
	生物理工	7	2.5	2.5	45.2
	総合社会	16	5.7	5.7	50.9
	短期	1	.4	.4	51.3
	農	9	3.2	3.2	54.5
	文芸	87	31.2	31.2	85.7
	法	22	7.9	7.9	93.5
	薬	4	1.4	1.4	95.0
	理工	14	5.0	5.0	100.0
	合計	279	100.0	100.0	

表５：学年ごとの短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	52	18.6	18.6	18.6
	2	127	45.5	45.5	64.2
	3	87	31.2	31.2	95.3
	4	13	4.7	4.7	100.0
	合計	279	100.0	100.0	

表６：性別ごとの短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	女	192	68.8	68.8	68.8
	男	87	31.2	31.2	100.0
	合計	279	100.0	100.0	

表７：言語ごとの短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	英語	155	55.6	55.6	55.6
	韓国語	104	37.3	37.3	92.8
	中国語	20	7.2	7.2	100.0
	合計	279	100.0	100.0	

表８：国ごとの短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	アイルランド	13	4.7	4.7	4.7
	アメリカ	21	7.5	7.5	12.2
	オーストラリア	73	26.2	26.2	38.4
	カナダ	42	15.1	15.1	53.4
	ニュージーランド	6	2.2	2.2	55.6
	韓国	104	37.3	37.3	92.8
	中国	20	7.2	7.2	100.0
	合計	279	100.0	100.0	

表９：学部ごとの英語圏への短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	経営	37	23.9	23.9	23.9
	経済	41	26.5	26.5	50.3
	工	13	8.4	8.4	58.7
	生物理工	5	3.2	3.2	61.9
	総合社会	10	6.5	6.5	68.4
	短期	1	.6	.6	69.0
	農	8	5.2	5.2	74.2
	文芸	13	8.4	8.4	82.6
	法	11	7.1	7.1	89.7
	薬	3	1.9	1.9	91.6
	理工	13	8.4	8.4	100.0
	合計	155	100.0	100.0	

a. 言語 = 英語

表10：学部ごとの韓国語圏への短期語学研修参加者数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	経営	14	13.5	13.5	13.5
	経済	6	5.8	5.8	19.2
	生物理工	2	1.9	1.9	21.2
	総合社会	6	5.8	5.8	26.9
	農	1	1.0	1.0	27.9
	文芸	64	61.5	61.5	89.4
	法	9	8.7	8.7	98.1
	薬	1	1.0	1.0	99.0
	理工	1	1.0	1.0	100.0
	合計	104	100.0	100.0	

a. 言語 = 韓国語

表11：学部ごとの中国語圏への短期語学研修参加者数

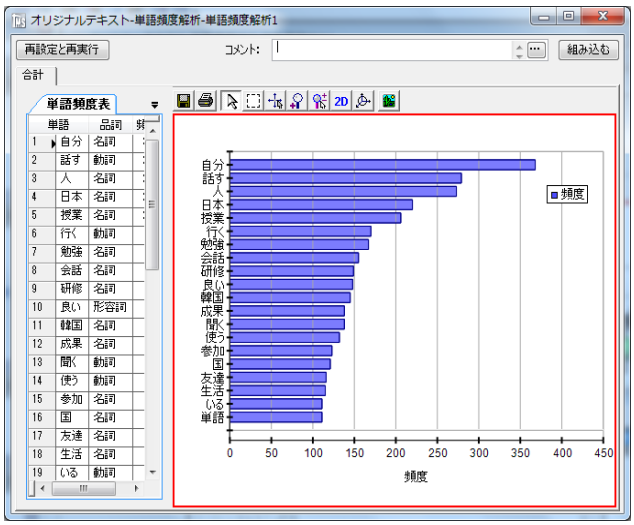
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	経営	3	15.0	15.0	15.0
	経済	5	25.0	25.0	40.0
	文芸	10	50.0	50.0	90.0
	法	2	10.0	10.0	100.0
	合計	20	100.0	100.0	

a. 言語 = 中国語

２．報告書分析（成果）

まず、成果についての分析を行っていく。無条件での単語頻度分析の結果、図１が得られた。

図１：単語頻度解析（成果：無条件）



同様に２文字以上、３文字以上の単語限定で頻度解析を行った結果、図２、図３が得られた。

図 2：単語頻度解析（成果：2 文字以上）

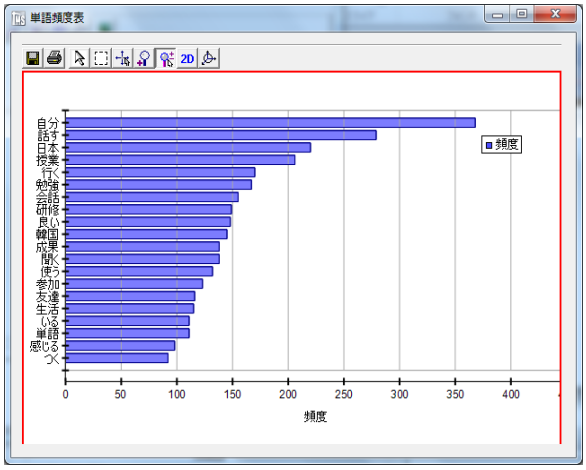


図 3：単語頻度解析（成果：3 文字以上）

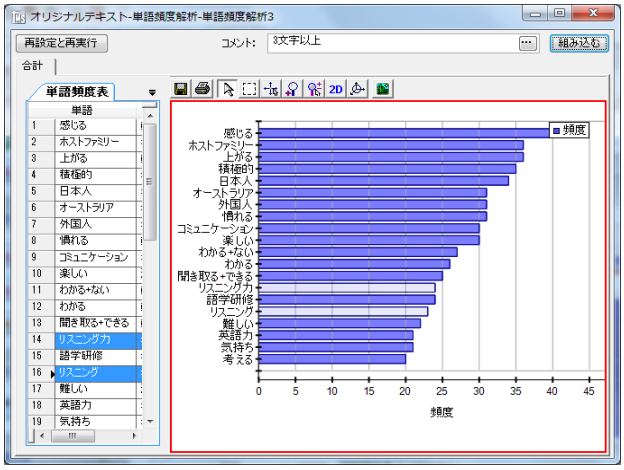


図 2、図 3 から、「研修」「語学研修」と言う語句が、また、「リスニング」「リスニング力」という語句が類義語であることがわかるので、類義語登録をし、同一語句として数えることにする。また、「英語」「韓国語」「中国語」という語句が頻出であるのは自明であるので、これらの単語は抽出しない設定にし、最終的な単語頻度解析を行った結果が図 4 である。

図 4：単語頻度解析（成果：最終）

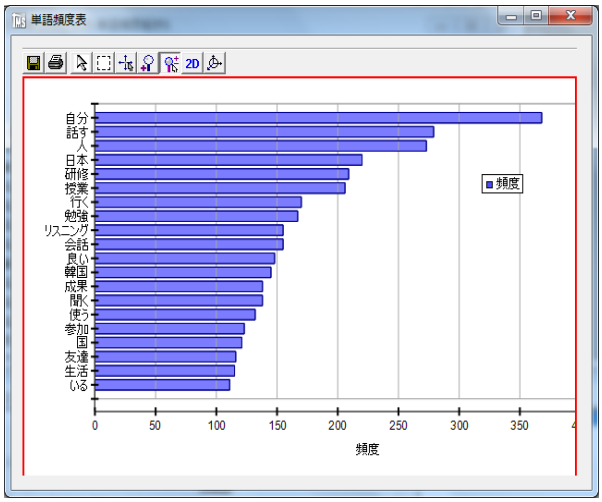
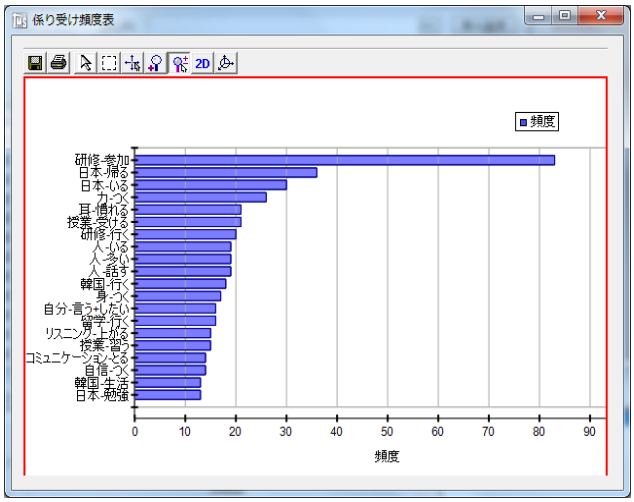


図 5：係り受け解析（成果）

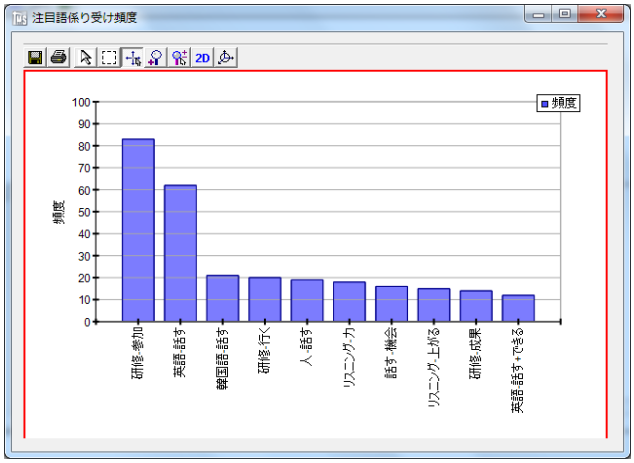


この結果、頻度の高い語句は 1 位「自分」2 位「話す」3 位「人」4 位「日本」5 位「研修」であることがわかり、参加者は『自分から人に話しかけることが大事であり、日本に帰ってからの語学学習のモチベーションとなった』ことがうかがえる・

また、同条件で係り受け解析を行った結果が図 5 である。この結果から、1 位「研修―参加」2 位「日本―帰る」3 位「日本―いる」4 位「力―つく」5 位「耳―慣れる」であることがわかり、参加者は『研修に参加して、日本にいるときよりも頑張った。日本に帰ってからのモチベーションになった。言語の力特にリスニング力、がついた』ことがわかる。

さらに、注目語「話す」「リスニング」「研修」の係り受け情報を見てみると、図 6 が示すように、「研修→参加、行く、成果」「リスニング→力、上がる」「英語、韓国語→話す、話す＋できる」「話す→機会」という共起が見いだされ、『研修に参加し、話す機会が多かったので、特にリスニングが向上した』ことがわかる。

図 6：注目語情報（成果）



さらに、『言語圏ごと』の特徴語・特徴表現抽出を行うと、必ずしも頻度は高くないが、その言語圏に特徴的な単語や表現が抽出される（図 7）。

図 7：特徴語抽出（成果：言語圏ごと）

	言語-英語	指標値 言語-英語	言語-韓国語	指標値 言語-韓国語	言語-中国語	指標値 言語-中国語
1	ホストファミリー	38.696	授業	65.014	街	26.338
2	外国人	36.117	勉強	60.211	聞く	24.708
3	海外	34.288	トウミ	56.654	出る	20.96
4	自分	31.461	3週間	52.791	いる	19.647
5	国	30.738	単語	47.968	人	18.696
6	外国	26.516	行く	45.496	何度	18.488
7	文化	25.857	リスニング	44.76	発音	17.732
8	話	24.723	日本語	43.983	レベル	17.094
9	人	24.624	力	40.324	授業	16.383
10	様々	20.975	つく	37.954	話す+できる	15.98
11	違い	20.134	多い	34.868	北京	15.061
12	日本人	18.779	いる	31.454	上達	14.903
13	質問	18.598	伸びる	31.372	単語量	14.663
14	相手	17.646	受ける	26.467	イメージ	14.464
15	学ぶ	17.097	会話	24.117	成果	14.269
16	思う	16.895	先生	23.504	会話力	14.065
17	言う	16.658	現地	20.99	リスニング+できる	13.948
18	上がる	15.908	耳	20.254	嬉しい	13.508
19	持つ	15.817	話す	18.64	勇気	13.468
20	家	15.142	文法	18.415	つく	12.992

まず英語圏では　1 位「ホストファミリー」2 位「外国人」3 位「海外」6 位「外国」7 位「文化」であることから、『ホストファミリーや他の外国人から、異文化を学んだ』ことがわかる。韓国では、　1 位「授業」2 位「勉強」3 位「トウミ[1]」5 位「単語」7 位「リスニング」であることから、『授業やトウミ

[1] トウミ制度というのは、留学先の慶熙（キョンヒ）大学が実施しているチューター制度のこと。現地の大学生と韓国語と日本語の練習をしたり、友達として一緒に出かけたりでき、短期留学の学生には非常に有効である。

から単語やリスニングを身につけた』ことがわかる。中国では　1 位「街」2 位「聞く」3 位「出る」4 位「いる」5 位「人」であることから、『街での、人との会話』が特徴的であったことがわかる。

同様に、言語圏ごとの特徴表現抽出を行った結果、英語圏では、1 位「文化―違い」2 位「視野―広がる 4 位「自分―行動」（図 8）という係り受けが特徴であり、『異文化を学び、自立性が養われた』ことがわかる。韓国語圏では、1 位「力―つく」2 位「授業―受ける」4 位「研修―参加」（図 9）という係り受けが特徴であり、『授業を受けて、力がついた』というとらえ方をした学生が多いことがわかるが、これは韓国語を専攻とする学生が多く、さらにリピーターも多いことに起因していると考えられる。

図 8：特徴表現（成果：英語圏）

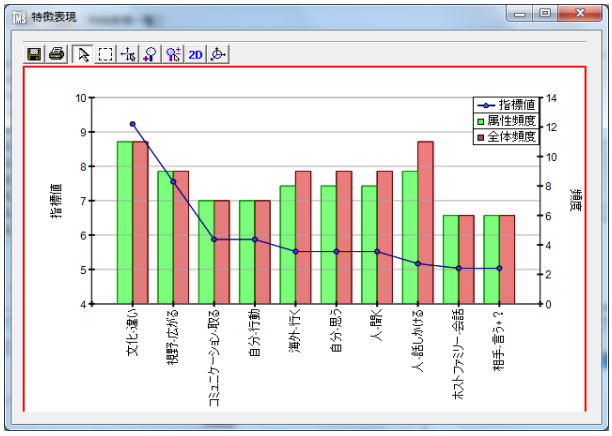
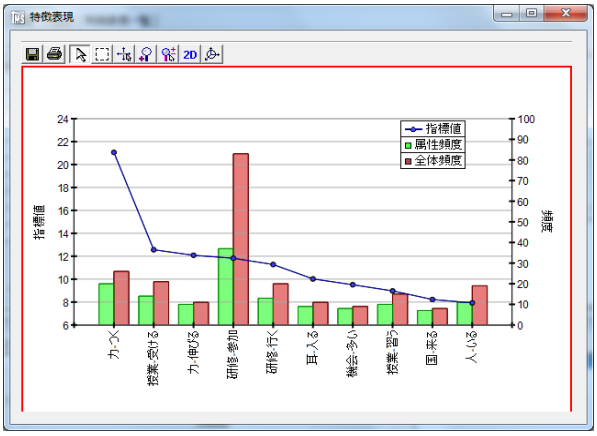


図 9：特徴表現（成果：韓国語圏）



さらに、評判抽出を行い、好評語、不評語を取り出して見ると、好評語は、1 位「人」2 位「経験」3 位「リスニング」4 位「会話」5 位「勉強」（図 10）であることがわかり、「いろいろな人と触れ合い、様々な経験ができた』ことが語学研修に参加して好評であったことだとわかる。逆に、不評語は 1 位「期間」2 位「リスニング」3 位「最初」4 位「理解」であることから、『研修期間が短いこと、最初は聞き取りができなかったこと」が不評語としてあがっている。

図 10：好評語（成果）

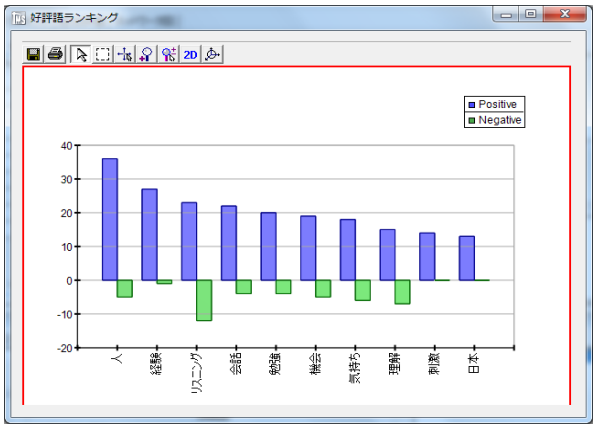
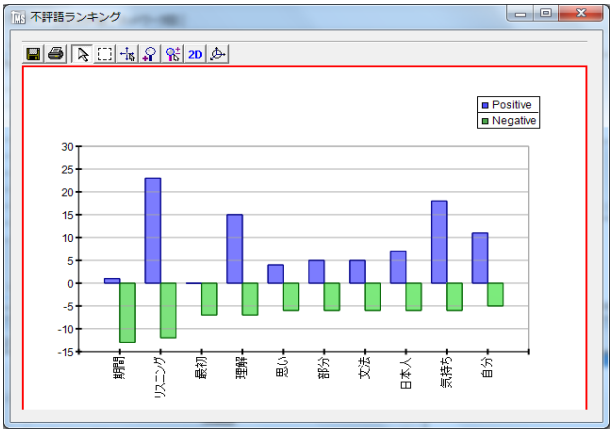


図 11：不評語（成果）



３．報告書分析（反省）

成果同様、反省について単語頻度分析、係り受け頻度分析を行った結果、図 12 図 13 が得られた。

図 12：単語頻度解析（反省）

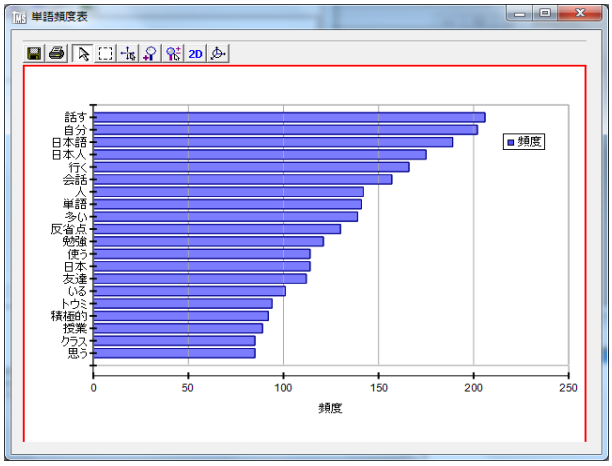
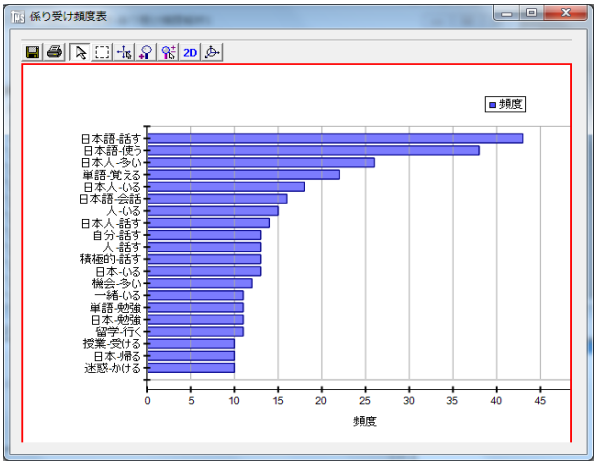


図 13：係り受け解析（反省）



その結果、1 位「話す」2 位「自分」3 位「日本語」4 位「日本人」5 位「行く」であることから、『日本人とよく一緒に行動したり、日本語で話したりしてしまった』ことを反省点としていることがわかる。また、係り受け解析からも、1 位「日本語 - 話す」2 位「日本語―使う」3 位「日本人―多い」4 位「単語 - 覚える」5 位「日本人―いる」であることから、『日本人が多いので、日本語で話してしまった。また、語彙力のなさを痛感した』ことがうかがえる。

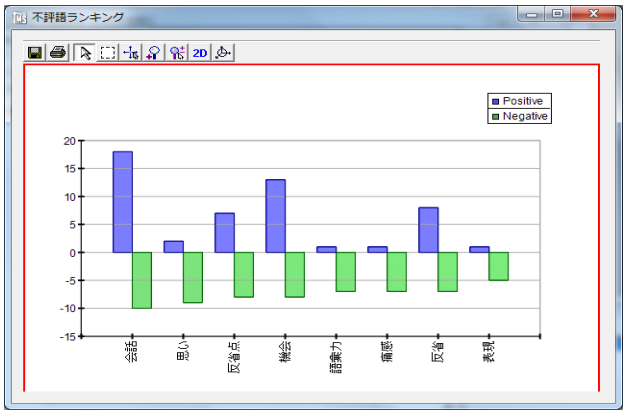
また、各言語圏ごとの特徴表現語抽出の結果、次のことが明らかになった。まず、英語圏では 1 位「日本語―使う」4 位「日本人―多い」4 位「単語―知る＋ない」であったことから、『日本人が多く、日本語で話してしまったこと、語彙力不足』を反省点としてあげている。韓国語圏では、3 位「予定 - 合う＋ない」4 位「トウミ - 会う」6 位「計画 - 立てる」であったことから、『トウミとうまく会えなかった。計画を立てるべきであった』ということがわかる。

図 14：特徴表現（反省：英語圏）

図 15：特徴表現（反省：韓国語圏）

さらに、評判分析の結果、1 位「会話」2 位「思い」5 位「語彙力」と言う語句が不評語として明らかになり、『思い通りの会話ができなかったことと語彙力不足』が反省点であった。

図 16：不評語（反省）



4．報告書分析（アドバイス）

まず、係り受け解析の結果、1 位「人 - いる」2 位「研修 - 参加」6 位「日本ー違う」7 位「パソコン - 持つ」15 位「研修 - 行く」（図 17）と言う結果が得られたことから、『留学を迷っている人は、参加してください。パソコンを持って行った方が良い。』というアドバイスであった。また、特徴表現分析の結果、英語圏では 3 位「積極的 - 話しかける」4 位「物価 - 高い」5 位「日差し - 強い」（図 18）となり、『積極的な行動の重要性』がアドバイスとなっている。韓国語圏では、韓国　1 位「雨 - 降る」2 位「友達 - 作る」3 位「日本 - 違う」（図 19）と言う結果から、『積極的な友人作り』がアドバイスとなっている。中国では体調を崩した学生が多かったのか、中国　2 位「乾燥 - 持つ」4 位「マスク - 持つ」5 位「風邪薬 - 持つ」（図 20）となっており、『乾燥していて、風邪をひきやすいので、体調管理が重要』であることがわかる。

図 17：係り受け解析（アドバイス）

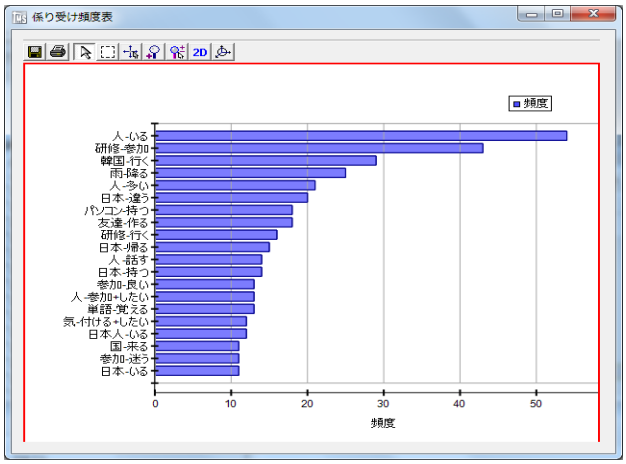


図 18：特徴表現（アドバイス：英語圏）

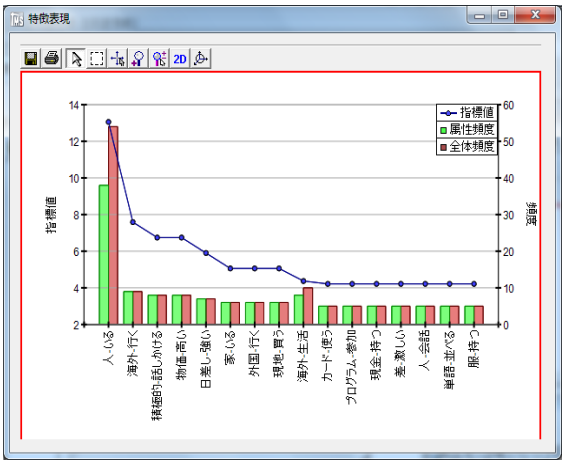


図 19：特徴表現（アドバイス：韓国語圏）

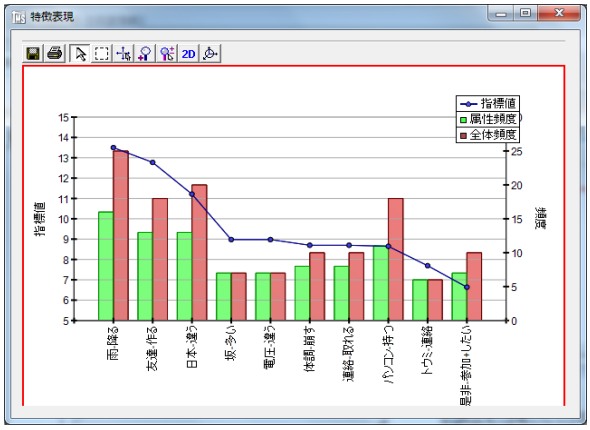
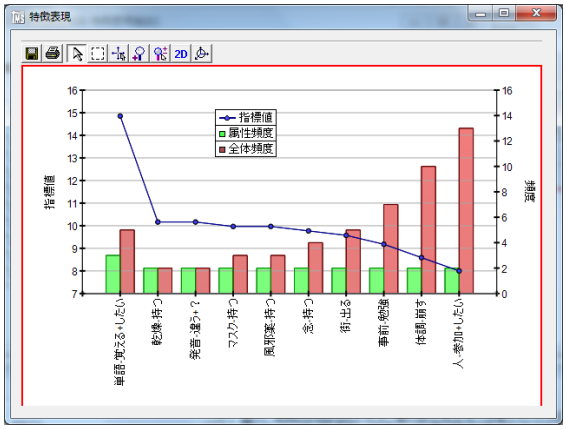


図 20：特徴表現（アドバイス：中国語圏）



５．最後に

以上国際交流室主催の短期語学研修参加者の報告書を、テキスト分析プログラムを用いて分析した結果の概略を記した。本稿では、全研修校での分析を行ったが、別稿において、英語圏への研修報告書の詳細な分析も実施予定である。

最後に、研修に参加した学生の声を集約すると、『リスニング力が向上し、帰国後の学習モチベーションも向上した』ことがわかる。 さらに、『ホストファミリーや、他国からの留学生との交流を通して、異文化を体験・学習出来たこと』、さらに、『自立性が確立』されたことが参加者の大きな成果であると言えよう。反省点としては、現地で『日本人が多いことから、日本語を使ってしまったことと、語彙力の不足』を大きな反省点として上げる学生が多い。そして、大半の学生が次年度以降、参加を迷っている学生には『参加を勧める』と述べている。

まだまだ発展途上にある近畿大学の国際交流室主催短期語学留学プログラムであるが、ほぼすべての参加学生たちから好評であり、研修参加以降の語学学習の大きなモチベーションとして、また学生の自立性養成に大いに役立っていることがわかる。